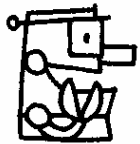


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
植物の体とはたらき / 理解シート

ジャガイモのいもは、根とくきのどっちなの



ジャガイモのいもは、地下のくきに、デンプンがたまつたものなのさ。

ジャガイモを植えて、花がさき始めたころ、根の周りを少しほってみると、小さいいもが、長くのびた管の先についているのが見られます。イモがついた管の周りを取りかこむように、ひげのような根が、何本も出ています。いもがついている管と、何本も出てくる根とは、ちがって見えます。

いもがついている管は、もとは、葉のわきから出るくきなのです。ジャガイモに、ちっ素肥料をたくさんやりすぎると、地下のこの管が成長しすぎて、地面からとび出し、葉がつき、ふつうのくきのようになってしまいます。

また、ジャガイモのくきにきずがつき、葉でつくったデンプンが地下に運べなくなると、葉のわきに、いもができることがあるのも、いもが根ではなく、くきの変化したものだというしょうこです。

種から育ったジャガイモは、葉のわきから管が出て、いもができる

畑で探してみると、ジャガイモに、トマトとよく似た、ピンポン玉ぐらいの大きさの実がなることがあります。この実が黄色にじゅくしたら、種を取り出し、地面にまくと、ジャガイモが育ってきます。このジャガイモは、地面近くの葉のつけ根から、管がのびて土にもぐり、その管の先に、いもができます。

野生のジャガイモには、実がなります。ジャガイモの先祖は、このように葉のわきのくきがのびて、いもができたのかもしれない。

